

日墨外相会談に係る共同プレスリリース

(平成19(2007)年11月25日)

2007年11月25日、高村正彦日本国外務大臣とパトリシア・エスピノサ・メキシコ外務大臣は、東京の外務省において友好的な会談を行い、二国間関係、国際場裡における協力及び国際情勢について意見交換した。

1. 高村外相は、タバスコ州及びチアパス州を中心に発生した大規模洪水・土砂災害についてお見舞いを表明するとともに、日本の緊急支援について言及した。エスピノサ外相は日本の心のこもった支援に対し謝意を表明した。
2. 両外相は、政治、経済、文化及び協力の分野で二国間関係が良好な状況にあることを確認した。また、先のAPEC首脳会合の際における首脳会談及び本年の外相相互訪問のような、ハイレベルの政治対話を維持する重要性を強調し、外相レベルの会合及び日墨政策協議を引き続き開催する希望を表明した。高村外相より来年の双方の都合の良い出来るだけ早い時期にフェリペ・カルデロン・イノホサ大統領を訪日方招請した。エスピノサ外相は福田康夫内閣総理大臣の訪墨を再度招請した。
3. 両外相は、日墨経済連携協定が発効以来予想以上の成果を上げていることを確認し、今後とも経済関係の深化に向け、同協定がもたらす機会を一層活用すべきことで一致した。
4. 両外相は、2003年に共同声明で表明された「戦略的パートナーシップ」関係が着実に進展していることに満足の意を表明し、交流促進、気候変動を始めとする分野でかかるパートナーシップの更なる発展を目指すことで一致した。
5. 両外相は、先般設置された交流協力戦略協議が、今後、半年程度をめぐり成果を上げる必要性について一致した。また、日墨交流計画が成果を上げていることを確認するとともに、交流協力戦略協議において本計画の質と効率を一層向上させる計画を共同で推進することが望ましい旨表明した。高村外相は日墨交流400周年を記念する「メキシコの夏2009」を然るべく支援し、また、我が国もメキシコで日本紹介事業（スーパーフィエスタ・デ・ハポン400）を行う意図を表明した。エスピノサ外相は、これを歓迎し、2010年のメキシコ独立200周年及びメキシコ革命100周年記念関連行事への参加を日本政府に再度招請した。
6. 両外相は、全ての国が共通だが差異ある責任を尊重しつつ、気候変動に立

ち向かうため例外なく行動すべきとの確信を表明した。このため、両外相は、気候変動の将来の枠組み交渉を推進すべく、二国間及び多国間のレベルで協力すると共に二国間での協力を推進することで一致した。それゆえ、日墨の取組を国際社会に向け模範として示すべく、二国間協議を開始することで一致し、そのために双方の責任者が指名されたことを確認した。

7. 両外相は、両国が国際的な平和及び安全に貢献すべく、2009年から2010年の安全保障理事会非常任理事国となるための相互支持を再確認した。また、安全保障理事会改革の必要性を再確認し、その早期実現に向けた両国の協力が重要である旨一致した。
8. 両外相は、2007年11月国連において両国が共催した「第3回人間の安全保障フレンズ会合」の成功を歓迎し、今後とも人間の安全保障の概念の普及に向けて協力することで一致した。

(了)